



AERO FIT SEATBAG GT2

エアロフィットシートバッグ GT2

〔取扱説明書〕

- この取扱説明書をよくお読みの上、安全に正しくご使用くださいますようお願いいたします。
- この取扱説明書はお読みになった後も、いつでも見られるように大切に保管してください。

●バイクへの取り付け方法

シートへの取り付け《KシステムベルトPF25を使用》

- シートを取り外し、図のようにKシステムベルトをシート裏側でロゴが見えるように位置を決め、シートの突起を避けながらグレーのベルトにシートをくぐらせます。

▲注意 ベルトが捻じれないように整えてください。
- シート表側でグレーのベルトのバックルをしっかり引いてシートに固定してください。グレーのベルトは回転移動できますので、ベルトが引きやすい位置に調整してください。

▲注意 シート固定ベルトがしっかり固定されていないとベルトがずれて安定しません。
- シートを戻し、しっかりと車体に固定させます。(この時に固定用のバックルのつけた4本のベルトをシートの外へ向きになるように出してください。)

▲警告 ベルトが車体側のフレームやフックに挟まれて破断する事のないようにご注意ください。

- 本体のバックルにKシステムベルトのバックルを嵌め込み固定します。不安定にならないように先に前の左右のバックルを同時に引いて適度なテンションにベルトの長さを調整し、次に後ろの左右バックルを同時に引いて長さを調整してください。

▲注意 「Kシステムベルト」と「固定ベルト」の併用は出来ません。
- バックルの着脱方法
●バックルの嵌め込み
バックル側の凸部にベルト側バックルの凹みに「カチン」となるまで嵌め込みます。
●バックルの解除
バックル両側のボタンを同時に押す事で接続が解除されます。

▲注意 「Kシステムベルト」と「固定ベルト」の併用は出来ません。
- 接続バックルの使用方法
バックルを取り外した後のKシステムベルト・固定ベルトは接続バックルで、車体に取り付けておく事が可能です。

▲注意 「Kシステムベルト」と「固定ベルト」の併用は出来ません。

車体への取り付け《固定ベルトPF25(別売り)を使用》

- 固定ベルト(別売り)のループを使用して下図を参考にバイクに取付けます。

▲注意 「Kシステムベルト」と「固定ベルト」の併用は出来ません。
- 固定ベルトを車体に繋げたらバックルを本体のバックルに接続します。前後左右が均等になるようにベルトの長さを揃めて調整します。

▲注意 「Kシステムベルト」と「固定ベルト」の併用は出来ません。

余ったベルトの収納方法

- ベルト調整後、余ったベルトはTベルトストッパーでまとめます。

▲注意 ホイールやチェーン等の可動部分に接触しないよう、余ったベルトはTベルトストッパーでまとめてください。

▲警告

- 取り付け後、及び乗車の前には必ず、安全な運転に支障がないか確認してください。●固定ベルトの取り回しに注意し、ベルトやその余りがホイールやチェーン等の可動部分に絶対に接触しないようにしてください。●正しく取り付け方を守らない場合、転倒等の重大な事故を引き起こす恐れがあります。

▲取り付けの注意

- 法令を厳守し、正しくお取り付けください。●シート・テールカウル・ウィンカーの形状等により、本製品を装着できない場合があります。事前に取り付け車両の形状を良くご確認ください。●バッグは走行に支障のない安定した位置に装着してください。シート形状や取り付け位置等により装着後も安定しない場合があります。走行前に必ず縦横に支障がない事を確認し、脱着の無いよう確実に装着してください。●走行による振動等で固定ベルト等が緩む場合があります。走行前には緩みがないか必ず点検し、常に適切な装着状態で使用してください。●バッグやベルト等を長時間シートに取り付けたままにすると、色移りする場合があります。特に暑い夏場等は適宜取り外してください。●バッグ本体やベルト・バックル等が車両に接触する場合は、事前にプロテクターシート(別売り:モトフィスプロテクターシート等)でその部分を保護する事をお勧めします。●エンジンやマフラー、排気煙等、車体の熱くなる部分には近づけない様に装着してください。●固定ベルト(Kシステムベルト等)に傷やほつれが生じた場合は、破損や脱落の恐れがあります。必ず新しい物に交換してから使用してください。(補修パーツリスト参照)

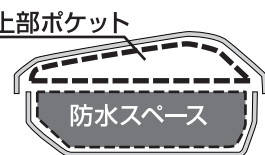
●部品構成

- 本体
- KシステムベルトPF25×1
- ショルダーベルト×1
- 接続バックルPF-25×1
- 取扱説明書×1

●バッグの使用方法

2つの収納スペース

- 本製品は防水スペースと手軽にアクセス出来る上部ポケットの2気室構造です。収納物により使い分けてご使用ください。

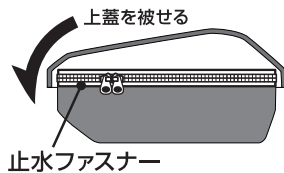


- ▲注意 上部ポケットは防水ではありません。

防水スペース

1 防水スペースの使用方法

- 本製品は防水インナーを「止水ファスナー」で閉め、上蓋で止水ファスナーをガードする構造です。防水性を確保するため、使用時は必ず「止水ファスナー」を完全に閉めてから上蓋を被せてください。



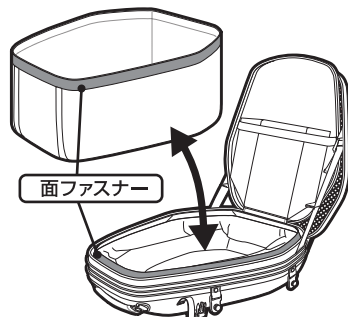
2 防水インナーのお手入れ方法

- 本製品はEVAケースと防水インナーの2重構造で浸水を防いでいます。構造的にEVAケースと防水インナーの間で多少浸水します。浸水は水抜き穴で抜ける構造ですが、雨天走行後は必ず防水インナーを本体から外し、本体と防水インナーを乾燥させてください。

- ▲注意 ●本製品は完全防水ではありません。水没や激しい雨天での走行では浸水する可能性があります。電子機器や大切な荷物はビニール袋に梱包する等、より万全な防水対策をお勧めします。●本製品は外部からの浸水には強い構造となっていますが、バッグ内部と外側の温度差により結露が発生し、荷物が濡る場合があります。特にマフラー等の発熱部品の近くにある場合や、長時間の雨天走行では内部が結露しやすくなりますのでご了承ください。●バックの外側が濡れた状態が開けると、入り口部の水滴等が中に流れ落ちる事がありますのでご注意ください。

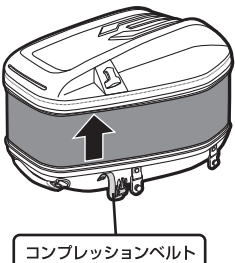
3 防水インナー装着方法

- 防水インナーを本体の面ファスナーから取り外してください。お手入れ後は取り外した逆の手順で本体と防水インナーの面ファスナーを合わせて装着します。

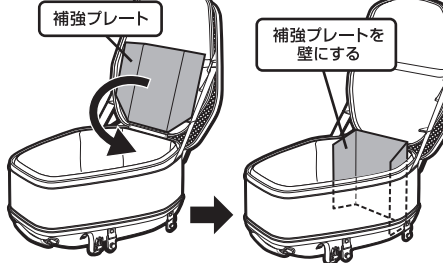


容量の拡張方法

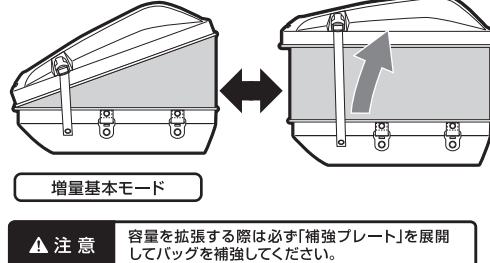
- バッグ左右のコンプレッションベルトを外してから、拡張ファスナーを開放し、拡張部分を引き出します。



- 内蓋裏面の補強プレートを展開してプレートをバッグ底面の奥まで合わせ、補強プレートをバッグ内部の壁とします。

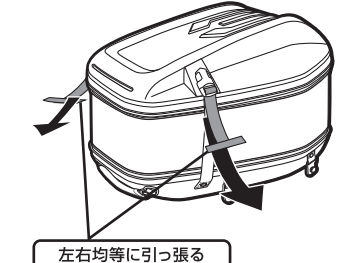


- バッグ内部に補強プレートで壁を建てた状態で容量18.5ℓの「増量基本モード」です。この状態から収納物により最大25.5ℓまで拡張部分を増量する事ができます。



- ▲注意 容量を拡張する際は必ず「補強プレート」を展開してバッグを補強してください。

- コンプレッションベルトを左右均等に調整し、収納物を押さえてください。荷物の揺れを押さえ安定させる事が出来ます。



ヘルメットの収納

- バッグ本体を「増量基本モード」形態にしてヘルメットを本体に収納します。その後、蓋を開けコンプレッションベルトでヘルメットを抑えて安定させます。



- ▲注意 ●荷室にはキズ防止生地を使用していますが、走行時の擦れなどによるキズを防ぐため、ヘルメットは他の荷物と混ぜずに単体で収納してください。さらにキズ付きが気になる場合は、ヘルメット収納袋との併用をお勧めします。●本製品はコンプレッション(締め付け)でヘルメットを押える構造上、バイザー等が付くヘルメットは収納できません。●本製品の最大ヘルメット収納サイズはSHOEI X-15のXLを目安としております。それ以上の大きさのヘルメットは適合外となります。●インカムなどの突起物は、破損の恐れがありますので必ず外してから収納してください。

上部積載の方法

- 本製品は上部積載しやすい上蓋形状をしています。Dリングを利用して別売りモトフィス・ツーリングネットを併用する事で上部積載が可能です。



ザックの装着方法

- ショルダーベルトを使用します。

- ショルダーベルトのフックを①のDリングに接続します。
- ②、③のDリングに通し...
- ④のDリングに接続します。
- アジャスターでベルトの長さを調整します。



- ▲注意 ●走行時、コーナー(道路)でのバイクの倒しこみは不安定になるのをやめください。●ご使用に伴う湿気(汗)と摩擦により衣類等へ色移りする場合がございますのでご注意ください。●掛けたまま、背負ったまま上蓋の開閉は出来ません。

▲使用上の注意

- 走行時は必ず法定速度を厳守してください。●最大積載量(7.0kg)を超える積載は、バッグの脱落や車両の破損、事故の恐れがあるのでお控えください。●走行による振動等で、Kシステムベルトや固定ベルトが緩む場合があります。走行前には緩みがないか必ず点検し、常に適切な装着状態で使用してください。●角が鋭い重量物を入れると、内装が破損する恐れがあります。その場合は緩衝材(バッキン等)で包んでから収納してください。●携帯ガソリンボトルやガスボンベ等の引火性の強い危険物は、火災の原因になりますので収納しないでください。●林道や砂利道などの荒れた路面(悪路)では、振動でバッグが脱落する恐れがあります。路面の状況やスピードに充分注意して走行してください。●本製品は通常使用における耐久性を充分に考慮して縫製されていますが、着脱時、ファスナーの開閉、バックルの扱いなどで無理な力を加えると破損する恐れがあります。丁寧にお取り扱いください。●寸法・容量等の表記につきましては、製品ごとに多少の個体差が生じる場合がございますので予め御了承ください。●仕様は改良のため、予告なく変更する場合があります。●取扱説明書に記載されている指示及び警告に従わない誤ったご使用により損害が発生した場合、弊社はその責任を負いかねますのでご了承ください。

保管とお手入れの方法

- バッグは必ず車体から取り外して保管してください。装着したまま放置すると劣化を早める原因となります。
- 表面等の汚れは、水で薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で拭き取って、良く乾燥させてください。
- 雨天走行等で濡れた場合は、そのままにせずバッグ内外の汚れと水分を拭き取り、すべてのファスナーを開いて、日陰の風通しの良い所で乾燥させてください。
- 保管の際は乾拭き・陰干しをしてから湿度、温度が低く風通しの良い場所に保管してください。

- ▲注意 ベンジン、シンナー、ガソリン等の有機溶剤の使用、及び水での丸洗いは生地を傷める原因となりますのでお避けください。

オプションパーツ(別売り)の使用方法

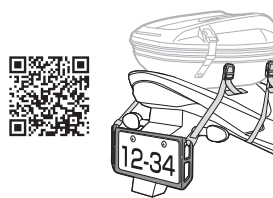
●プロテクターシート

- バッグやベルトの接触面に貼る事で車体の傷付きを防止出来ます。詳しくはタナックスWebサイトでご確認ください。



●プレートフックシリーズ

- バイク後部に荷掛けフックが無い車両でもプレートフックを使用する事で、固定ベルトをより簡単に確実に装着することが出来ます。詳しくはタナックスWebサイトでご確認ください。



タナックス株式会社
千葉県流山市おおたかの森西 3-5-7 〒270-0128 TEL: 04-7150-2450
TANAX CORPORATION
3-5-7, OTAKANOMORINISHI, INAGAREYAMA, SHILCHIBA 270-0128, JAPAN TEL: +81-4-7150-2450

TANAX WEB サイトへ
簡単アクセス!
https://www.tanax.co.jp

TH1207062